

# 一般社団法人太陽光パネルリユース・リサイクル協会

## 太陽光パネルリユース・リサイクルの促進に寄与するために

2011年、あの東日本大震災による原発事故を受け、兼ねてより問題とされていたエネルギー政策の大きな転換期となりました。翌2012年から始まった再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）、また気候変動問題への対応とエネルギー安全保障の観点から太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの導入が急加速で進んできました。

さらに2021年10月に閣議決定された「エネルギー基本計画」では、2030年度の電源構成として再エネ導入目標を36～38%（2019年度：18%）としており、そのうち太陽光は14～16%（2019年度：6.7%）とされ、さらなる拡大が必要とされております。

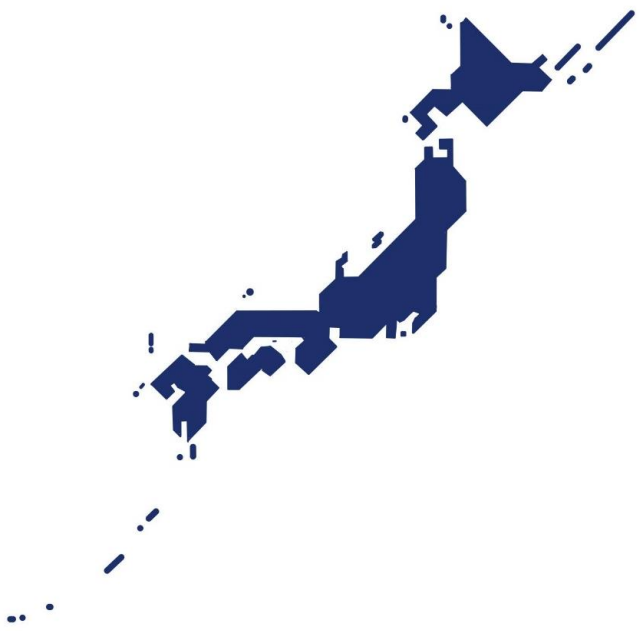
それに伴い、当然使用済みとなったパネルの廃棄による埋め立て処分場のひっ迫や有害物質を含めパネル構造によるリサイクルの難しさなど、使用済みパネルが社会的問題のひとつとして取り上げられるようになってきました。

環境負荷低減の手法としては太陽光パネルは使用できる期間が20年を超えるため、リユース品として国内外で販売される太陽光パネルもあり、製品としての寿命を全うする取組も増えております。しかし一方で、一部の業者が環境省発信のガイドラインを遵守せずに故障しているパネルを海外へ輸出するなど不適正な事例も見られ、日本の信用・信頼を損なう事例も見受けられます。

我々一般社団法人太陽光パネルリユース・リサイクル協会は、今後さらに拡大する太陽光発電に伴うこれらの課題に取り組み、適正でよりよいリユース・リサイクルの促進に寄与して参ります。そのためには、ここに賛同いただく皆様と力を合わせ、必要な法整備への意見集約やリユース・リサイクルの技術や資材など研究開発、さらにリサイクルされる資源（ガラスやバックシートなど）の付加価値向上に向けての研究開発など太陽光発電に関連する皆様とともにこれらの社会的課題を解決するための仕組みを構築していきたいと思っております。



代表理事 濱田 篤介

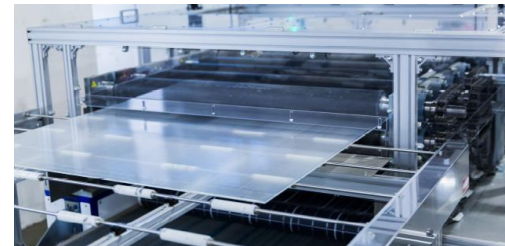


## POLICY 協会運営方針

### 出口戦略も含めた新たな

### リユース・リサイクル技術の研究・開発

近い将来、大量の廃棄が想定されている太陽光パネルリユース・リサイクルにおける課題を具体化・可視化し、目指すべき適正なリユース・リサイクルスキームの確立とリサイクル資源の出口戦略も含めた新たな技術の研究・開発を行います。



### コンソーシアムの形成と関係団体の支援

太陽光パネルの適正なリユース・リサイクルの理解と定着、また関係省庁を含めた協力関係・コンソーシアムの形成に向けた国内外企業・団体への支援を行います。



### 各種情報発信とルールづくり

適正なリユース・リサイクル基盤の形成と促進、及び健全で円滑な市場の拡大をはかるため、各種情報発信ルールづくりに向けた国内外の関係機関との協力を推進します。



## PLAN 活動内容

### 太陽光パネルリユース・リサイクル技術の共有・普及活動

会員向けのセミナー及びリユース・リサイクル事業者への工場見学会を実施し、現在の日本国内における太陽光パネルリユース・リサイクルの技術を共有しつつ普及活動を行います。また連携するコンソーシアムなどにおいて講演会を実施し、本協会の周知と正会員の勧誘を行います。

### 適正な太陽光パネルリユース・リサイクルの周知・啓蒙活動

全国産業資源循環連合会や各都道府県の産業資源循環協会や太陽光メンテナンス協会などに加えて、適正なリユース・リサイクル推進に係る啓蒙活動の協力を経済産業省、環境省の協力の元に行います。

### 太陽光発電に関する会員への情報発信と交流活動

正会員だけでなく連携するコンソーシアムや協会、関係省庁との意見交換の場を開催する。また、社団法人事務局にて国内外動向の情報収集を行い、リサイクル・リユースだけでなく太陽光発電に関わる幅広い分野を対象として発信を会員に対してメールマガジン等の形式で行います。

## 協会概要

名称	一般社団法人太陽光パネルリユース・リサイクル協会
所在地	103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-10-8
設立	2022年11月1日
代表理事	濱田 篤介

